

扇風機、除湿機で時間短縮 ～洗濯物を早く乾かす方法～

共働き世帯や単身者、またはライフスタイルの変化から夜に洗濯し、室内に洗濯物を干す人が増えています。しかし、室内干しは、結露や洗濯物の異臭の原因となることなどが指摘されています。快適に室内干しするにはいかに短時間で乾かすかがポイントです。そこで、扇風機や除湿機を活用して、洗濯物を早く乾かすための効果的な方法を検証しました。

テスト方法

綿100%のバスタオル（60×120cm）を水に10分間浸した後、脱水（3分、7分）。自然乾燥と扇風機、除湿機を利用した場合の乾燥度を測定しました。

電子天秤にタオルハンガーを設置し、バスタオルを3枚掛けます。温度20℃、湿度65%の室内条件で30分ごとの質量変化を測定し、含水率5%到達時点で「乾燥」としました。

自然乾燥の場合は、そのまま測定を開始します。扇風機を利用した場合は、高さ1m、タオルハンガー側面1mの距離から送風、風量は「弱」または「中」に設定しました。除湿機を利用した場合は、高さ1m、タオルハンガー側面1mの距離から送風、衣類乾燥「標準」に設定しました。

同時に乾燥中の室内温度、湿度も測定しました。

テスト結果

○乾燥度合

・自然乾燥

脱水3分が16時間30分、脱水7分が12時間30分、脱水3分と7分の差は4時間でした。乾

燥中の室内温度や湿度に大きな変化はありませんでした。

・扇風機を利用した場合

脱水3分・風速「弱」が6時間30分、「中」が5時間、脱水7分・風速「弱」が5時間、「中」が4時間でした。脱水3分と7分の差は、風速「弱」が1時間30分、「中」が1時間でした。

乾燥中の室内温度に大きな変化はありませんでしたが、湿度は乾燥開始時から急上昇、2時間前後で80%以上まで達しました。

・除湿機を利用した場合

脱水3分が5時間、脱水7分が4時間30分、脱水3分と7分の差は30分でした。

乾燥中の室内温度に大きな変化はなく、湿度はほぼ50%以下に保たれていました。

1カ月の電気代

1日6時間、月15日間使用した場合の電気代を算出しました。

扇風機の場合、風速「弱」は10.3円、「中」は33.8円でした。

除湿機の場合、511.1円で扇風機に比べると電気代が非常に高くなりました。

【消費電力及び電気代】

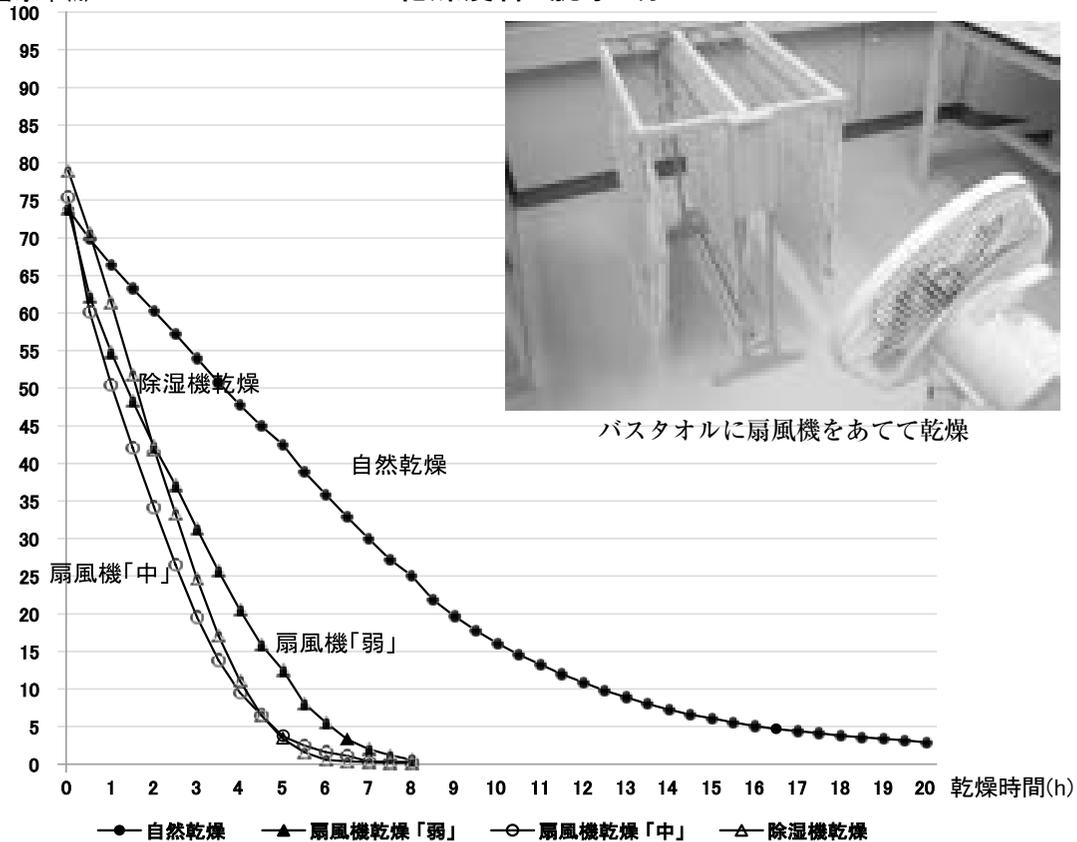
乾燥方法	設定	消費電力 (W)	※2 1カ月の 電気代(円)
扇風機	風速「弱」	4.1	10.3
	風速「中」	13.1	33.8
※1 除湿機	衣類乾燥	202.8	511.1

※1 除湿機はコンプレッサー方式で除湿能力9.0ℓ/日を使用

※2 電気代は28円/kWhで算出

乾燥度合 脱水3分

含水率(%)



バスタオルに扇風機をあてて乾燥

まとめ

- ・自然乾燥では、乾くまでの時間が12時間以上と非常に長かかりました。脱水時間3分と7分の違いによる乾燥時間は4時間と大きな差がありました。
- ・自然乾燥に比べ、扇風機、除湿機を利用した場合、最大11時間30分、乾燥時間が短縮されました。
- ・扇風機と除湿機では、乾燥時間に大きな差はありませんでしたが、乾燥中の室内湿度が扇風機の場合は急上昇し、80%以上まで達しました。一方除湿機はほぼ50%以下に保たれていました。
- ・1ヶ月の電気代を比較すると除湿機のほうが扇風機より非常に高くなりました。

消費者へのアドバイス

- ・洗濯物を早く乾かすには「室温を上げる」

「部屋の湿度を下げる」「風を当てる」などの対策で乾燥効果が上がります。

- ・自然乾燥する場合、脱水時間の違いで大きな差が認められました。厚手の洗濯物を自然乾燥するとき、脱水時間を長くし洗濯物の含水量を少なくしてから干しましょう。
- ・扇風機や除湿機を用いて乾燥することにより、乾燥度合が非常に向上し時間が大幅に短縮されます。
- ・乾燥中の室内の湿度上昇を抑えたい場合、除湿機の利用がおすすめですが、電気代が高くなります。
- ・扇風機の利用は身近にあり、電気代も安くおすすめですが乾燥中、室内の湿度上昇が大きいため、多量の洗濯物を干すときは湿度対策が重要です。方法としては換気扇の利用、換気口の開放などが挙げられます。
- ・扇風機の風速「弱」と「中」では1時間程度の差なので、「弱」で十分でしょう。